

学科・専攻	専門試験（芸術学科は小論文）	面接	
	狙い・意図	狙い・意図	専門試験作品利用
日本画			
油画		提出した作品が該当学年に相当する技術力、表現力を持ち得ているか、大学編入後のヴィジョンはあるか、普段どのような意図で制作しているのか、本学油画専攻を選んだ理由が明確かどうかなど、総合的に判断して採点を行った。	
版画		3年次編入面接試験では、現在までの制作研究内容を含む提出作品とポートフォリオを前に、専任教員との質疑応答の中で以下の点をポイントとし評価を行います。 ・日本語能力＝質問を十分に理解し、的確に返答できるか（外国人の受験生） ・完成度＝作品とともにポートフォリオ自体に完成度があるか ・意欲・積極性＝志望動機は明確であるか、学業や制作に意欲があるか ・プレゼン力＝持参した作品を基に自身の考えを明確に述べられるか、説得力をもっているか ・計画力＝入学後の研究に展望をもち、その実現に何が必要であるか把握しているか	
彫刻		作品と作品ファイルのみで審査するため、用意された質問（美術以外の関心・最近見た展覧会について・多摩美を選んだ理由・将来の展望）などに加え、気がついた教員が適宜作品について追加質問をした。 ここでも基本的には「入学後にどれだけ伸びるか？」が審査の基準である。 ・入学後にどのような制作をしたいか ・卒業後の展望 ・美術以外に関心のあること	
工芸			
グラフィックデザイン	鉛筆デッサン ・理解力 問題の把握、理解が正しいか ・伝達力 問題の意図や状況を正確に表現しているか ・発想力 問題を造形化するアイデアが優れているか ・描写力 構図、形、動き、量感などを描写することに必要な技術が優れているか ・個性 デッサンからうかがえる品格、感性に優れているか ・3年次に相当する能力を有するか	面接 ・日本語で日常会話が行えるか ・専門分野の用語が理解できるか ・入学志望理由が明確であるか ・自分の意見が述べられるか	●
プロダクトデザイン			
テキスタイルデザイン	今年度はインテリアまたはファッションのいずれかを選択することから始める試験問題を出题しました。テキスタイルパターンデザインの提案に加え使用例を図説することを求めることで、テキスタイルデザインと社会との関係を意識しデザインができているかを審査しました。また、出題の意図を理解し解答を行うことができるか。表現力（アイデアが的確に伝わる表現となっているか）に加え、独創性と3年次に相当する能力を有しているかを評価することをねらいとして出題しました。	受験者が本学専攻の基礎課程（1・2年次）と同等の教育課程を習得しているか。3年次からの授業についていけるかどうかを持参作品により審査しました。さらに自分の考え方やテキスタイルデザインを学ぶための熱意を明確に説明できるか。他大学での授業体験や知識が在学生の刺激となるかも評価の対象とし採点のポイントとしました。	●
環境デザイン			
情報デザイン メディア芸術コース			
情報デザイン 情報デザインコース		1. 作品が学部2年次修了レベルの品質であるか 2. 作品のプレゼンテーション力、対話・コミュニケーション力があるか 3. 入学後の具体的な学習・研究イメージがあるか 4. 卒業後のデザイン活動に関するヴィジョンがあるか 5. 情報デザイン分野の専門性を理解しているか	
芸術	論述の着眼点が出題内容に対して適切であるか、論旨は明確で説得力があるか、卒業論文を書き上げるのにふさわしい能力があるかという点が判断基準になります。常識的にまとめあげた文章より、テーマに踏み込んだ独自の発想を期待しています。	芸術学科の特性に対する理解度、受験生の知的好奇心や学業および芸術への熱意などを考慮しながら質問を行い、判定します。	×
統合デザイン	理解力=問題の把握・理解が正しいか 観察力=日常の気づきからアイデアを導きだしているか 発想力=イメージを具体化するアイデアが優れているか 描写力=構図、形、光、量感などを描写することに必要な技術が優れているか 視 点=事象を捉える感覚とその表現が適正で感性に優れているか	編入学志望理由が明確かつ適切か 本学科の内容を理解しているか 自分の意志・考えを持ち、明確に述べられるか 授業に必要な対話力・語学力・思考力はあるか 授業に必要な確かな観察力と制作技術はあるか 提出作品の内容に対する評価	×
演劇舞踊デザイン 演劇舞踊コース	舞踊：身体を動かしながら日本語の口頭での指示を聞き取り、指示を基にして何らか実践することができているか。 演劇：言語的な表現能力と感性、表現の幅を見た。また発想力や空間への把握能力も確認。 共通する主な出題の意図は以下。 ・受験生の、理解力、意欲、独創性、観察力、身体認識能力の確認。 ・グループワークにおいて、コミュニケーションにより創作を発展させる能力の確認。 ・日本語能力の確認。 ・舞踊、演劇いずれにおいても3年次の授業に対応できる能力をすでに持っているかを重点的に見た。	当学科へ3年次編入を希望した理由。（具体的であるほど望ましい） 実技試験の感想。仮に編入した場合、授業に対応できるのか。 演劇舞踊、芸術全般への興味、情熱。 本学科カリキュラムの理解。 これまで学んできたことについて、また本学科でそれがどのように生かされうるか。 本学科を修了した場合の自身の活動の展望について。	
演劇舞踊デザイン 劇場美術デザインコース	「手」は全ての造形・創造を生み出す中心的役割を担っています。そして、演劇や舞踊では感情を表現する重要な手段でもあります。基礎的なデッサン力と共に、自由な発想や構図で、独創性や構成力を見ることがねらいです。情景を想定するということは、モチーフから物語を創造してドラマチックな世界観を創出することも出来ます。また、演劇舞踊デザイン学科の特色でもある、「光と空間を意識した構成」を表現してください。光の表現・捉え方（陰影の表現）は重要なポイントとなります。 用紙の縦横レイアウトは自由ですが、画面構図は大きな採点ポイントとなります。自由な構成や構図で独創性と構成力を見ることがねらいです。情景を想定するということは、実空間の形を捉えるだけでなく、ドラマチックな設定を思い浮かべ、心の中の情景を描くことも可能です。魅力ある個性的な創造力と描写力のバランスがとれているかも重要です。出題者の意図を読みとり、創造力で挑戦し採点者を感じさせ感動させる解答を期待します。	面接試験では持参した作品の説明に重点をおいています。ポートフォリオは、在校大学の課題作品、デッサンや色彩構成などのベーシックなものから、個人作品として制作したものまで幅広いラインナップが望ましいです。作品解説において、明快なコンセプトとそれを実現するための表現を的確に説明出来ているかを評価の基準としています。また、決められた時間内に説明ができるかも重要な要素です。3年次編入相当の実技力と専門能力を有しているか、ゼミ授業への希望が明確かを判断します。作品面接では、提出された修得単位資料では判断しかねる、基礎スキルや専門能力のほか熱意も判断基準となります。	●